



CSRLレポート 2019

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT

「断つ・保つ」の技術で 地球の明るい未来に 貢献します。

Contents

会社概要	02
トップメッセージ	03
社会の中のニチアスグループ	05
ニチアスの事業活動とSDGsのかかわり	07

特集01

増し保温®工法

「熱ロス診断」と「熱損失削減」で 業界全体の省エネに貢献	08
---------------------------------------	----



特集02

ガスケットLabo™

「安全を保つ」「技術者育成」という 新しい価値を社会に提供	09
--	----



CSRの活動目標と実績	11
コーポレートガバナンス	13
お客さまとのつながり	15
株主・お取引先とのつながり	16
従業員とのつながり	17
社会とのつながり	19
環境への取り組み	21

編集方針

ニチアスグループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みと社会的責任に関する情報をわかりやすく開示し、ステークホルダーの皆さまのご理解を深めることを目的に、CSR (Corporate Social Responsibility) レポートを発行しています。

報告範囲

ニチアス株式会社を中心に、下記項目を除きニチアスグループ全体について報告しています。

- ・「従業員とのつながり」(P17、18)の「メンタルヘルスケア」「人材の開発と育成」「ダイバーシティへの取り組み」「ワークライフバランスの推進」についてはニチアス株式会社単体を対象としています。
- ・「環境への取り組み」(P21～26)は、プラント向け工事・販売事業および建材事業の工事部門に関するデータを除いています。
- ・「環境パフォーマンス」(P23、24)は当社製造工場^{注1}、国内連結製造子会社^{注2}を対象としています。

注1:鶴見工場、王寺工場、郡山分工場、羽島工場、袋井工場、結城工場

注2:ニチアスセラテック株式会社、株式会社堺ニチアス、国分工業株式会社、竜田工業株式会社、大田化成株式会社、株式会社福島ニチアス、メタコート工業株式会社、株式会社君津ロックウール

報告期間

2018年4月1日～2019年3月31日

報告書発行時期

2019年6月(年1回)
(前回発行 2018年6月 次回発行予定 2020年6月)

編集・発行

CSRチーム

将来の見通しに関する注意事項

本レポートには、ニチアスグループの実績および将来に関する予測・計画などが記載されています。これらは現段階で入手可能な情報に基づいた仮定ないし判断であり、実際の業績や活動結果などについては異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまにはあらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

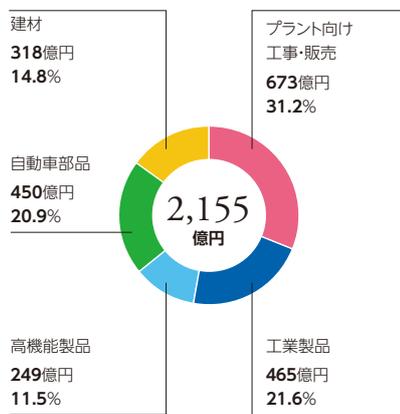
※®が付された名称はニチアス(株)の登録商標です。

※TMが付された名称はニチアス(株)の商標です。



事業分野

事業分野別売上高比率 (2019年3月期)



建材事業

不燃・断熱・耐火などの性能を備えた建材を提供するとともに、その建材を活用した施工事業も展開。オフィスビル、住宅、工場、研究施設などの、より安全で快適な空間づくりに貢献しています。



巻付け耐火被覆材



住宅用断熱材

自動車部品事業

シリンダーヘッドガスケットなどの流体の漏れを「断つ」機能部品であるシール材をはじめ、自動車の進化に対応する防熱、防音、制振関連の製品を提供しています。



シリンダーヘッドガスケット



超軽量防音カバー

プラント向け工事・販売事業

極低温から超高温に至る領域で、独自技術を駆使したエンジニアリングサービスやシール材などをはじめとする製品を提供。電力、LNG、石油精製・石油化学などのプラント施設に常駐体制を構築することで、各種工事やメンテナンス工事におけるお客さまのニーズにお応えしています。



保冷工事



シール材

工業製品事業

装置機器、環境、食品、医療、鉄鋼などの主要産業分野を中心に、ガスケット・パッキン、ふっ素樹脂製品、各種断熱材、フィルター製品などの幅広い製品を提供しています。また、全社のマザー事業本部として、新規事業創出の役割も担っています。



ロックワール断熱材



低濃度有機溶剤濃縮機

高機能製品事業

技術革新の早いエレクトロニクス関連産業分野の中で、半導体・FPD製造装置における、熱・薬液・ガスなどプロセスにかかわる先進の部品や部材を提供しています。



ふっ素樹脂製チューブ

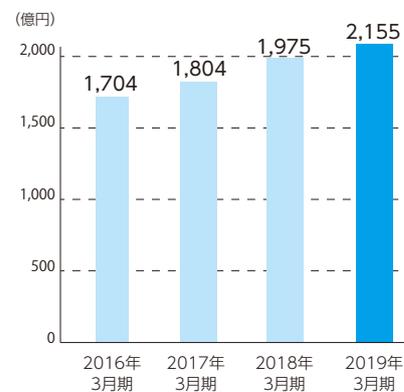


配管加熱・保温ヒーター

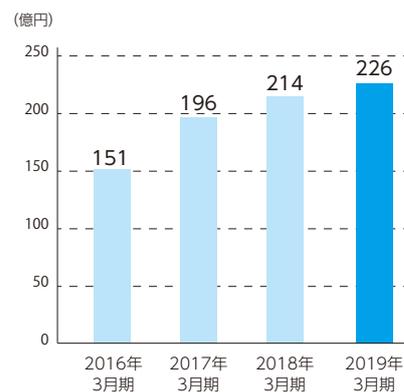
会社概要 (2019年3月31日現在)

商号 ニチアス株式会社
 NICHIAS Corporation
 設立 1896年(明治29年)4月9日
 資本金 121億円
 代表者 代表取締役社長 武井 俊之
 従業員 連結: 6,036人/単独: 1,684人
 本社 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号

売上高推移 (連結)



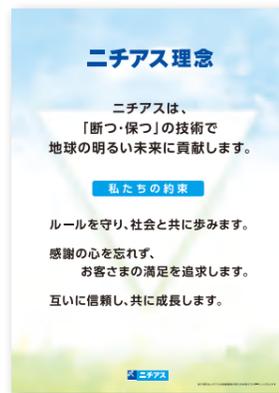
営業利益推移 (連結)



120年にわたる「断つ・保つ」の技術力とノウハウで 新たな価値を創造し、 社会的課題の解決に貢献していきます

代表取締役社長

武井 俊之



ニチアスの歴史と理念

ニチアスは1896年(明治29年)に、我が国における保温・断熱分野のパイオニアとして創業いたしました。以来120余年の歴史の中で、当社独自の技術である「断つ・保つ」の技術を深化させ今日に至っています。

当社グループの企業理念であるニチアス理念では、「ニチアスは『断つ・保つ』の技術で地球の明るい未来に貢献します」と掲げています。「断つ・保つ」の技術は、漏れを「断つ」、熱を「断つ・保つ」、音・振動を「断つ」、火を「断つ」、腐食を「断つ」、グリーンを「保つ」の6つの技術から成り立っていますが、これらを駆使した製品・サービスを通

して、省エネルギーや廃棄物処理などの社会が抱える課題の解決に貢献することを宣言したものです。

社会的課題を解決する 製品・サービスの開発

当社グループは、2016年度を初年度とした5カ年の中期経営計画を策定しています。事業面では成長市場への注力、海外事業の強化、国内事業のシェアアップを、機能面ではCSR活動の推進(社会的役割と価値の向上)を施策としています。これらを達成すべく日々企業活動を行っています。

本レポートの一つの特集では、プラントで使用される保温材の機能劣化による熱損失を改善し、効果まで検証するビジネスモデルとして、平成30年度省エネ大賞(製品・ビジネスモデル部門)経済産業大臣賞を受賞した「エアロジェル増し保温®工法による保温材熱ロス削減」を取りあげています。二つの特集では、劣化の把握が難しかったガスケットを評価・検証し、ガスケットを使用する工場の安全操業に貢献するために2018年から開始した新サービスである「ガスケットLabo™」を紹介しています。双方ともに当社の「断つ・保つ」技術を応用した製品・サービスです。当社は、このような製品・サービスを提供し続けることで、今後も社会からの要請に応えていきます。

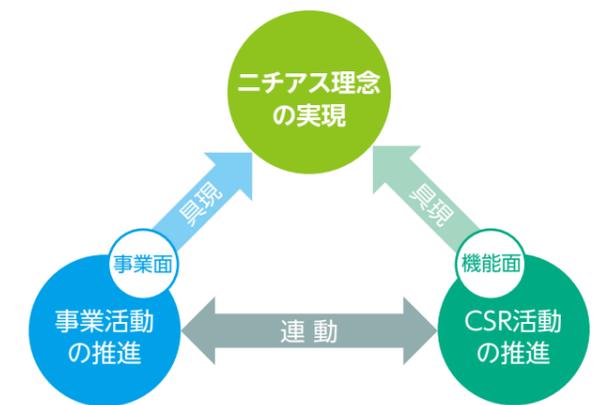
当社の活動とSDGsとのかかわり

本レポートでは、新たに当社の事業活動とSDGsのかかわりについて報告しています。当社グループの製品やサービスはSDGsに関連しているものが多く、お客さまが当社製品やサービスをご利用いただくことでSDGs達成の助けとなります。今後も当社の強みと特色を活かした製品の開発、供給を進めることで、SDGsに貢献してまいります。

NKK(ニチアス改善活動)の推進

当社グループでは2015年から、グループ全体の改善活動であるNKK(ニチアス改善活動)に取り組んでいますが、これが実を結び効率的な企業体質となることができました。今後も引き続きNKKに取り組むことで、当社グループがかねてから掲げてきた「働きやすい明るい会社」をめざし、ニチアス理念の実現に向けて歩んでまいります。

2018年度のCSR活動の成果をステークホルダーの皆さまにご報告いたします。本レポートをご一読いただき、当社グループ理解の一助になれば幸いです。



「断つ・保つ」の6つの技術で 環境など社会的課題の解決に貢献

「断つ・保つ」の6つの技術



シール技術

配管の継ぎ目から流体が漏れることを防ぎ、設備の安全な稼働を支えています。



耐火技術

工業炉や焼却炉、または火災で建物が火にさらされても耐えるための材料を提供し、安全を守ります。



断熱技術

加熱(または冷却)されたものの温度を保ったり、外部からの熱を断つことで省エネルギーに貢献し、CO₂排出量の削減にも役立っています。



耐食技術

化学薬品による腐食や汚染を防ぎます。たとえば、洗浄や除菌の管理が厳しい半導体や食品製造の工程で活躍しています。



防音技術

工場からの騒音や自動車のブレーキからの振動音を低減することで、静かで快適な生活の実現に寄与しています。



クリーン技術

半導体製造などわずかな不純物も許されない工程で、クリーンを保っています。クリーンを極限まで追求します。

1 半導体製造工場

低濃度有機溶剤濃縮装置
ソルベントグリーン®
半導体製造工程から排出される空気をクリーンにするために、低濃度VOC含有ガスを濃縮する装置です。



高機能ゴム製シール材
ブレイザー®ネクスト
クリーンな環境が求められる半導体製造工程の機器などに使用されるゴム製シール材です。



15 住宅

住宅用断熱材
ホームマット®
住宅の天井・壁・屋根に使用される断熱材です。防音機能にも優れています。



14 物流倉庫

巻付け耐火被覆材
マキベエ®
鉄骨構造ビルの梁や柱に使用される耐火被覆材です。施工の省人化にも貢献します。



13 ビル

建築用防音・断熱材
MGビルパック®
ビルの天井、間仕切壁に使用される防音・断熱材です。オフィスの省エネ・防音に貢献します。



2 ロケット

ふっ素樹脂製ホース
ナフロン®PFA耐圧ホース
ロケット発射台の機器、設備制御用ラインに使用されるふっ素樹脂製のホースです。



3 病院

医療用チューブ
ナフロン®マルチルーメンチューブ
内視鏡などクリーンが求められる医療機器の部品として使用されるわずが直径1mm程度のふっ素樹脂製のチューブです。



4 原子力発電所

原子力発電設備用保温材
金属保温材
原子炉の压力容器や配管などに使用されるほこりが一切出ないすべて金属製の保温材です。



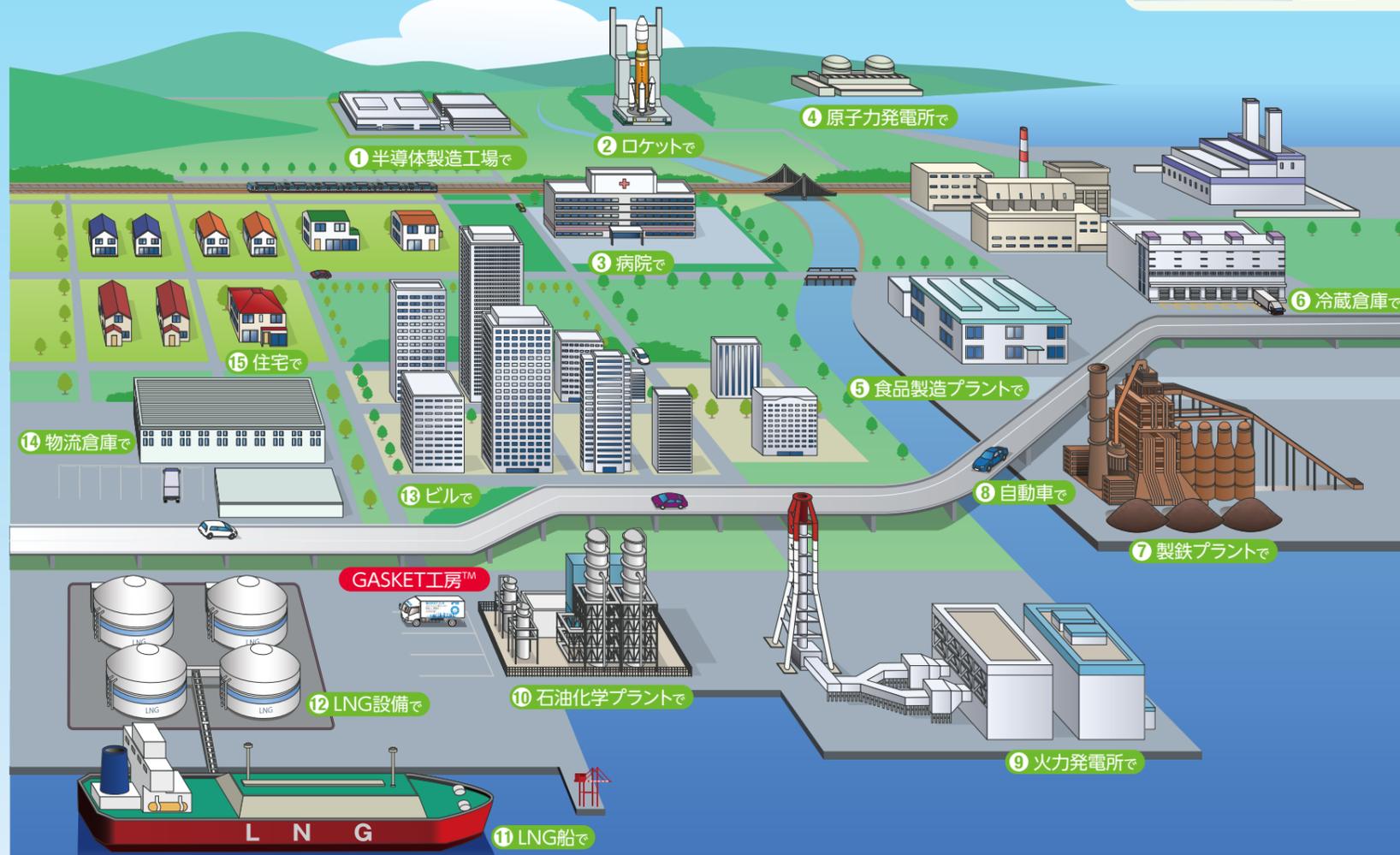
5 食品製造プラント

食品向けシール材
サニグリーン®ガスケット
食品製造工程の製品充填ラインなどで使用されるにおい、汚れが付かないシール材です。



6 冷蔵倉庫

防熱工事
-20℃の大型冷蔵倉庫などへの保温・保冷材の施工工事です。



7 製鉄プラント

高温用断熱材
ファインフレックスBIO®ブランケット
ボイラーの天井や炉壁などに使用される断熱材です。省エネルギーに貢献します。



8 自動車

自動車部品用シール材
メタコート®
エンジンのシリンダーヘッドなどに使用されるシール材です。



超軽量防音カバー
エアトーン®
自動車のエンジンやトランスミッションなどに使用される防音カバーです。



9 火力発電所

配管用シール材
グラシール® ボルテックス® ガスケット
ボイラーなどの機器や配管で使用されるシール部がうず巻き形状のシール材です。



10 石油化学プラント

保温機能回復工法
増し保温®工法 P8参照
劣化した保温材を取り外すことなく、新しい保温材を重ね巻きして保温性能を回復させる工法です。



GASKET 工房™

お客様の工場内に常駐し、その場でガスケットの加工が可能なトラックです。スピーディーな対応が特長です。



12 LNG設備

極低温用保温材
フォームナート®TN
-162℃の低温流体が流れる配管に使用されるウレタンフォーム保温材です。



11 LNG船

保冷工事
-162℃の低温流体が流れるLNG船の配管やタンクへの保温材の取り付け工事です。



ニチアスの事業活動とSDGsのかかわり

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



さまざまな社会問題が深刻化する中、2015年に国連では持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)が採択され、世界を変えるための17の目標が決まりました。その達成に向けて日本でも企業が果たす役割が重要になってきています。

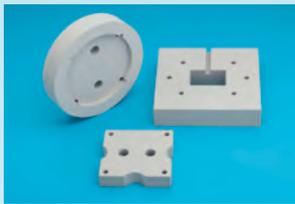
当社製品やサービスは直接的にはSDGsを達成できるものではありませんが、お客さまが当社製品やサービスをご利用いただくことでSDGs達成のための手助けとなります。

以下では、その事例をいくつかご紹介いたします。今後当社事業活動を通じて、SDGsに少しでも貢献できるよう企業の運営に組み込んでいきます。

SDGsを支援する製品・サービスの一例

ロスリム®ボード

電子部品の焼成炉にも使われる極めて高い断熱性能をもつ断熱材



平成27年度省エネ大賞省エネルギーセンター会長賞受賞

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
断熱効果により、省エネルギーに貢献します
関連するターゲット **7.3**

13 気候変動に具体的な対策を
省エネルギーによるCO₂削減効果が期待できます
関連するターゲット **13.2**

ホームマット®

住宅の天井・壁・屋根に使用される断熱材



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
ホームマットを使用した高断熱住宅が増えることで省エネルギーに貢献します
関連するターゲット **7.3**

13 気候変動に具体的な対策を
省エネルギーによるCO₂削減効果が期待できます
関連するターゲット **13.2**

エネサーモ®

バルブやフランジなどに着脱自在で繰り返し使用できる断熱材

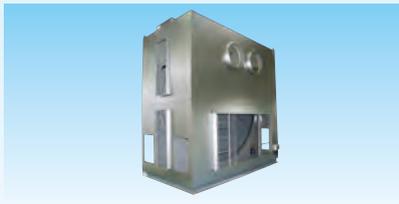


7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
断熱効果により、省エネルギーに貢献します
関連するターゲット **7.3**

12 つくも責任 つかう責任
着脱可能であるため、繰り返し使用できるので、廃棄物が削減できます
関連するターゲット **12.5**

ソルベントクリーン®

低濃度で大風量のVOC(揮発性有機化合物)含有排ガスを高濃度・小風量に濃縮することで、有機溶剤を効率的・経済的に処理する装置



3 すべての人に健康と福祉を
汚染物質を大気中に放出することを防ぎ、大気汚染による疾病者数を減らすことに貢献します
関連するターゲット **3.9**

11 住み続けられるまちづくりを
汚染物質を大気中に放出することを防ぎ、大気中の微粒子物質やVOC濃度の低減に貢献します
関連するターゲット **11.6**

「増し保温®」工法

劣化した保温材を取り外すことなく、保温性能を回復し、エネルギーのロスを抑え再び配管を流れる流体の温度を保つ工法



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
劣化した保温材の保温性回復効果により、エネルギーロスを抑え、省エネルギーに貢献します
関連するターゲット **7.3**

12 つくも責任 つかう責任
劣化した保温材を回復させることで、従来廃棄物となる既設保温材を再使用しています
関連するターゲット **12.5**

ガスケットLabo™

ガスケットについて「評価技術」「検証技術」「体験学習」の3つを柱としてお客さまの困りごとに対応するトータルエンジニアリングサービス



8 働きがいも経済成長も
ガスケットの劣化状態を評価し、さまざまな実験やシミュレーションを用いることで、最適なガスケットを選定し、最適な交換時期を推奨することができます
関連するターゲット **8.2**

12 つくも責任 つかう責任
ガスケットの最適な交換時期を知ることで交換頻度を減らし、ムダな廃棄物を減らせます
関連するターゲット **12.5**

特集01

増し保温[®]工法

「熱ロス診断」と「熱損失削減」で 業界全体の省エネに貢献

屋外に建設される製鉄所、石油精製、化学工場などのプラントは、気候の影響を受けやすく、雨水など浸透による保温材の劣化が進行し、熱ロスの発生が懸念されます。多くのプラントは建設から30年以上が経過し老朽化が進んでおりますが、保温材はほとんど更新されていません。そこで、ニチアスは熱ロスの診断と改修箇所の特定、施工・検証までを一貫して行うソリューションを提案しています。これまで見落とされていたエネルギーロスの削減に着目した新しい価値の提供で業界全体の省エネルギーに貢献しています。



プラント配管の劣化による課題

稼働の継続

従来の改修工事は、保温材を配管から取り外し、新しい保温材に交換する方法をとるため、プラントを停止する必要がありました。また、交換した保温材が産業廃棄物として発生するという問題がありました。

劣化場所の特定と検証

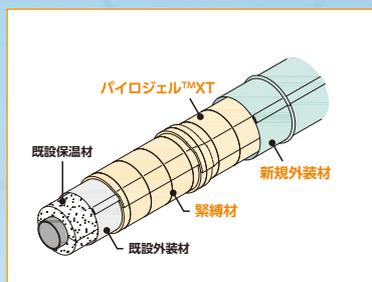
プラントの保温されている配管は、総延長が一事業所で数キロに及ぶケースがあること、配管の保温材の劣化が外観だけでは、見分けられないことから、劣化場所の特定と検証が困難でした。

ニチアスの提供する価値



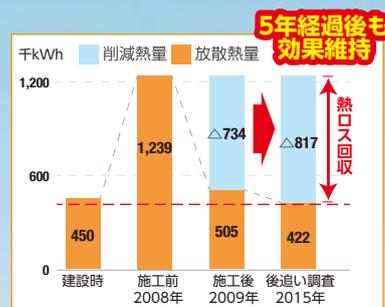
1 熱診断 屋外プラントの潜在熱ロス調査

サーモグラフィーによる診断と測定時期や気温などを考慮した独自の手法を開発し、プラントの配管全体の劣化度マップを作成します。



2 工法 保温強化による改善(増し保温[®])

既設保温材と外装材の上から新しい保温材(エアロジェル保温材)を巻き付ける工法のため、プラントを停止することなく安全に施工できます。産業廃棄物も発生しません。



3 熱診断 熱ロスの改善(効果の検証)

改修前と後での放散熱量を比較し金額換算することにより、工事費用を回収できる年数を提示し、熱ロス削減効果を見える化します。

新しいビジネスモデルの構築で業界全体の省エネルギーに貢献

ニチアスは、課題特定、増し保温による施工・検証までの一連を通じた提案で、従来見落とされていた熱ロスの削減を実現しています。今後は、この技術を展開することで業界全体の課題解決に貢献します。

平成30年度省エネ大賞経済産業大臣賞 (ビジネスモデル分野)

屋外プラントの経年による保温材の劣化から熱ロスの発見、増し保温[®]工法による改善、検証する省エネルギー対策に貢献する新たなビジネスモデルが評価されての受賞となりました。



ガスケットLabo™

「安全を保つ」「技術者育成」という新しい価値を社会に提供

石油精製・石油化学、鉄鋼、電力など、さまざまなプラントの多くは設備の老朽化が進み、事故や故障の発生リスクが高まっています。プラントの安全操業には、適切なメンテナンスによる予防保全が重要ですが、熟練施工技術者の減少により、メンテナンス技能の維持も難しくなっています。そのような中、これらの課題を解決するためにニチアスのガスケットLabo™は誕生しました。ニチアスが120年以上培ってきた「断つ・保つ」の技術で、安全操業を実現するとともに、学びやすく定量化した知識を伝えることにより施工者の技術力向上を図ります。



お客さまINTERVIEW



新興プランテック株式会社
メンテナンス技術本部 ファブ・テック室
室長 近藤 康治 様

業界の課題と向き合う力強い味方

私は現在、配管の内作工事や自社特殊技術の現場展開を管理する部門を統括し、フランジ全般のアドバイザーとしての業務を行っています。そうした中で、プラント施工管理の現場において、最大の課題となっているのは人材不足です。現場では熟練労働者の退職者数に入職者数が追いついておらず、働き方改革の潮流もあり、工事のやり方自体の改革が求められています。特にフランジ締結不足によるトラブルが顕在化していますが、これにも一定の技術習得が必要です。ガスケットLabo™の体験学習プログラムでは、ボルトの締め付けを可視化できたり、ガスケットペースト塗布の影響を体験できたりと、新人作業でも理解しやすい工夫がされています。今後もニチアス様と連携し、業界全体の課題解決を図るとともに、ニチアス様の特徴を活かし、さらに進化したプログラムが構築されることを期待しています。

安全操業のための3つの要素

原因を知る

プラントで発生するトラブルの一つに、内部流体の漏えいがあります。なぜシール製品が正しく機能せず、漏えいを防げなかったのか？ まずは「原因を知る」必要があります。

対策を立てる

トラブルを防止するためには「対策を立てる」必要があります。対策の効果を事前に検証することが望ましいのですが、シール製品が使用されるさまざまな環境すべてを実験で再現することは困難です。

定着させる

同じトラブルを繰り返さないためには、知識・技能を「定着させる」必要があります。しかし熟練した施工技術者は減少し、技術の維持が難しくなっています。



ニチアスの提供する価値

EVALUATION
評価技術
EVALUATION

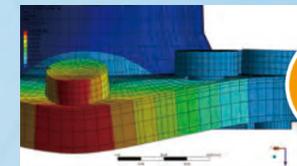
トラブルが起きた箇所のシール製品を、長年のノウハウを活かして分析調査し、原因を突き止めます。分析装置、試験設備を活かした高度な解析により再発防止のためのご提案を行います。



原因を突き止め
予防保全に貢献

SIMULATION
検証技術
SIMULATION

コンピューターを用いたシミュレーション技術で、事前に対策の検証を行うことができます。豊富な実験データと組み合わせることでシール製品の適切な運用をご提案します。



高度な技術で
適切な運用を提案

EXPERIENCE
体験学習
EXPERIENCE

シール製品の機能を正しく理解し、適切に使用できるように、座学や実技を行う講習会を開催しています。知識・技能の定着や育成支援でプラントの安全を保ちます。



学習支援による
現場力の向上

ガスケットLabo™に「学びの場」誕生 — ニチアス鶴見研究所(神奈川県横浜市)

横浜市にある当社鶴見研究所に、施工技術者の人材育成に役立つ「学びの場」が誕生しました。当施設では、座学での学習に加え、フランジをボルトで実際に締め付けて体感しながら学ぶことができます。シール製品を適切に使用するためには、シール製品の機能を理解し、適切な施工を行うことが重要です。講習で理論を学び、設備を使って実践することで効率的に学ぶことができます。長年培った豊富な知見を学びやすい形に体系化してご提供し、現場力の向上をお手伝いいたします。



社内担当者INTERVIEW



工業製品事業本部 配管機器技術開発部
神原 華実

お客さまの安全・安心のために全力で取り組んでいます

フランジ締結体におけるトラブルをなくしたい、という思いは多くのお客さまに共通しており、さまざまな施策が講じられています。そのため、当社のようなシール材メーカーにも、製品の販売だけでなく付随する価値の提供が求められます。ガスケットLabo™は、当社がこれまでに培ってきた「技術・経験・知識」と「新しい価値の提供」という思いをミックスさせたツールであり、プラントの安全操業に役立つことができると確信しています。安全・安心のために我々が貢献できることは何か？ まだまだ模索している部分もありますが、さまざまなご要望をいただきながら今後も成長を続けてまいります。

CSRの活動目標と実績

ニチアスグループは、お客さま、お取引先、株主・投資家、従業員の皆さまとのつながりはもとより、社会全般および拠点のある地域社会とのつながりを大切に、より良い関係の構築を通して社会的課題の解決に貢献します。

○ 目標達成 △ 目標に対し50%以上達成 × 目標に対し50%未満の達成

6つの軸	活動項目	目標／あるべき姿	2018年度計画	2018年度報告	自己評価	2019年度計画
1	コーポレートガバナンス	内部統制評価	当社グループの内部統制が有効に機能し、リスクが低減され、健全な経営活動が推進されている	<ul style="list-style-type: none"> ● 本体：9拠点、グループ会社：国内20拠点、海外11拠点を対象に業務監査を実施 ● 予定していたすべての拠点で監査を実施し、適切な活動が行われていることを確認 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 本体：14拠点、グループ会社：国内11拠点、海外10拠点を対象に業務監査を実施
	コーポレートガバナンス	コンプライアンス	ニチアス「コンプライアンス憲章」に則り、法令・定款の順守はもとより、社会の良識、常識を踏まえたコンプライアンス活動に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ● 本部委員が各支部委員会を訪問し、支部委員会活動を支援 ● 支部委員会活動の活性化と周知 ● 「コンプライアンスポータルサイト」の啓発資料を活用した教育の継続実施 ● 外部講師などによるコンプライアンス研修の実施 ● コンプライアンス内部講師の育成 ● 時間外、休日勤務の管理ルールの順守 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員会活動が形骸化している支部委員会への本部委員訪問による運営支援、啓発教育の実施 ● 法令やコンプライアンス関連の勉強会を実施 ● コンプライアンス内部講師のフォローアップ研修および新規内部講師の育成研修の実施 ● 支部委員会、職場単位での啓発教育の実施 ● 「コンプライアンスポータルサイト」の充実化継続 ● コンプライアンス内部講師による各職場でのハラスメント防止研修の実施
	コーポレートガバナンス	知的財産の保護	競争優位性の確保と公正な競争秩序を維持するために知的財産の保護・尊重をグループ丸となって推進している	<ul style="list-style-type: none"> ● 知的財産保護・尊重の浸透 	<ul style="list-style-type: none"> ● eラーニングの階層別研修の実施 	○
2	お客さまとのつながり	製品の安定供給	災害など不測の事態が発生しても、供給責任を果たせる体制が構築できている	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続的に事業活動を行っていくためのBCP活動 ● 鶴見工場：BCP対策を強化した建屋への再編完了 ● 羽島工場・樹脂部門の実績を他部門への横展開 ● 製造拠点のリスク診断の継続実施(2拠点/年)* ● ※ 想定リスク：火災、爆発、自然災害 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続的に事業活動を行っていくためのBCP活動 ● 製造拠点のリスク診断の継続実施(2拠点/年)* ● ※ 想定リスク：火災、爆発、自然災害
	お客さまとのつながり	品質保証体制	安全で信頼性の高い製品・サービスを提供している	<ul style="list-style-type: none"> ● クレーム発生0.21件以下(連結売上1億円当たり) ● 「品質アカデミー」受講者200名以上 ● 「QC検定」合格者30名 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● クレーム発生 0.21件以下(連結売上1億円当たり) ● 品質教育による啓発活動の実施「品質アカデミー」「QC検定」
3	株主・お取引先とのつながり	株主・投資家への情報開示	株主・投資家の皆さまに公平、適切な情報開示ができています	<ul style="list-style-type: none"> ● フェアディスクロージャールール導入にともなう公平、適切な情報開示 ● 個別ミーティング 150件以上 ● 個人投資家向け会社説明会開催 ● 工場見学実施 ● 海外IRの実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な情報開示 ● 個別ミーティング 140件以上 ● 個人投資家向け会社説明会開催 ● 工場見学実施 ● 海外IRの実施
	株主・お取引先とのつながり	公正な競争・取引	公正かつ自由な競争・取引が行われる環境下で事業活動を継続している	<ul style="list-style-type: none"> ● 独禁法、下請法違反事例ゼロ ● 下請事業者への手形などでの支払方法の適正化 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 独禁法、下請法に関する研修会、eラーニングを実施(違反事例ゼロをめざした順法意識の向上) ● 下請事業者への手形等での支払方法の適正化のための必要な改善を実施 ● 子会社における下請取引の実態を調査し、必要な改善を実施
	株主・お取引先とのつながり	取引に関する方針	継続した事業活動を行うために、原材料のBCP対策ができています	<ul style="list-style-type: none"> ● 原材料のBCP対策について41社すべてのヒアリングを完了し、結果を社内展開し、今後の対策を実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 各本部から、提示された製品の原材料について、BCPの観点から調査を完了し、状況を把握、各本部に報告
4	従業員とのつながり	ダイバーシティへの取り組み	多様な人材が活躍できる環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性総合職の積極採用：採用率 20%以上 ● 障がい者雇用率の維持：障がい者雇用率 2.2%以上 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性総合職の積極採用：採用率 20%以上 ● 障がい者雇用率の維持：障がい者雇用率 2.2%以上
	従業員とのつながり	ワークライフバランスの推進	仕事と家庭など仕事以外の生活との調和を保つ環境で働いている	<ul style="list-style-type: none"> ● 有給休暇の取得推進：有給休暇取得率 50%以上 ● 在宅勤務制度導入 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 有給休暇の取得推進：計画取得の推進および有給休暇取得率 70%以上 ● 在宅勤務制度の試行
	従業員とのつながり	従業員の安全と健康の推進	従業員の健康を維持し、働きやすい明るい職場づくりを推進している	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康診断二次検査受診率 100% ● ストレスチェックと集団分析の継続実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康診断二次検査受診率 100% ● ストレスチェックおよび集団分析を実施
	従業員とのつながり	従業員、家族とのコミュニケーション	従業員と家族にとってニチアスがより身近な存在になれるような活動を実施している	<ul style="list-style-type: none"> ● 重大災害 0件 ● 安全作業指針(4種類)制定 ● 「指差し呼称」の定着 ● 安否確認ツールの申込推進と運用開始後のフォロー 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● [指差し呼称]実施者への評価方法の検討 ● 全事業場KY指導者の育成とKY活動の再スタート ● 安全作業指針(4種類)制定 ● 海外駐在員の安否確認 ● 安否確認ツール「ハザードバスター」定期的訓練 ● 国内従業員の安否確認 ● 避難訓練、安否確認システムの訓練の継続 ● 災害時の通信手段の再整備 ● 海外出張者の位置情報把握
5	社会とのつながり	地域貢献活動	ニチアスグループそれぞれの事業所が地域に共存する存在として、地域に貢献する活動を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ● 各拠点によるCSR活動の充実 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 各拠点によるCSR活動の充実
	社会とのつながり	社会貢献活動	学術研究への貢献や災害支援など、広く社会に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ● 学術研究助成の継続 ● 寄付を通じた地域への貢献 ● 災害支援の継続 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 学術研究助成の継続 ● 寄付を通じた地域への貢献 ● 災害支援の継続
6	環境への取り組み	コンプライアンスの徹底 環境負荷低減製品の開発 環境パフォーマンスの向上 社会との共存	環境中期方針(2016年度～2020年度)に基づく各種課題を達成している(詳細はP22)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各拠点による活動実績(詳細はP20) ● 学術助成 約2,800万円 ● 各種寄付 約1,000万円 ● 2018年西日本豪雨災害、2018年北海道胆振東部地震などに計250万円の義援金 	○	<p>環境への取り組みの目標・実績はP22に掲載しています</p>

コーポレートガバナンス

ニチアスグループは、経営の透明性、公正性、効率性を高め、企業価値を長年にわたり安定的に向上させることが経営の最重要課題と考えています。



コーポレートガバナンスの強化

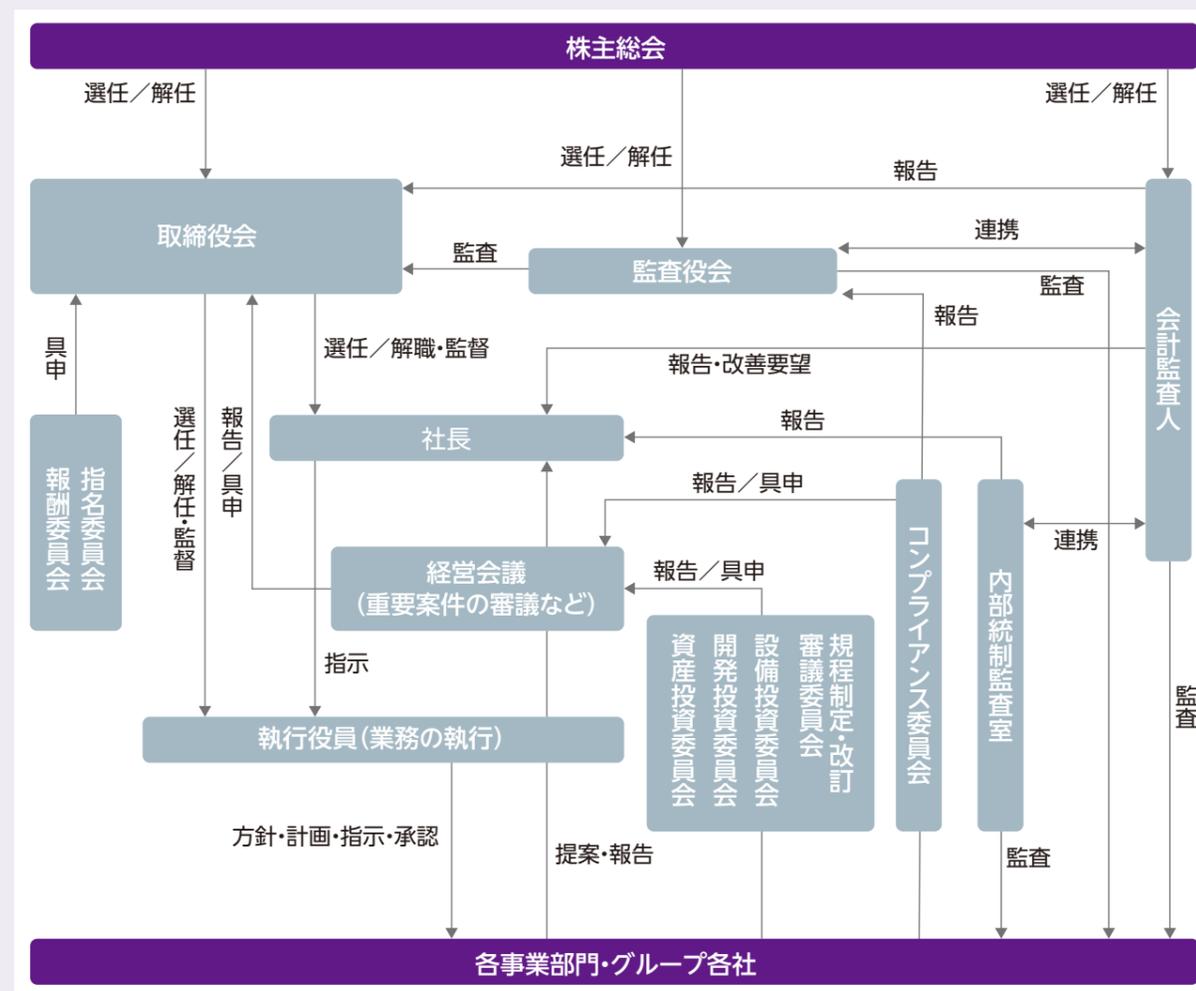
当社グループの企業価値の向上は、公正な企業活動によって社会的使命を果たし、ステークホルダーの皆さまの信頼と支持を得て初めて可能であり、コーポレートガバナンスの充実はそのための体制づくりの基本的な命題であると位置付けています。

当社の取締役会は、経営の透明性、公正性を高め、かつ経営上の意思決定を迅速に行うため、当社事業に精通した8名の取締役と、独立した立場から自由に提言できる2名の社外取締役で構成されています。毎月定例日に1回、必要な場合は臨時に開催し、経営上の重要な意思決定を行っています。2018年度は合計14回開催しました。このほか、取締

役会を効率化するための審議機関として、取締役、常勤監査役、各本部を担当する執行役員により構成される経営会議を原則毎週開催しています。稟議案件の承認、全社的な業務運営や個別の重要案件を審議することで、機動的な意思決定が可能となる体制を構築しています。

また、当社の監査役会は経営監視機能の客観性と中立性を確保するため、それぞれ専門分野をもった社外監査役とさまざまな当社業務経験をもった常勤監査役によって構成されており、経営に対して積極的な意見表明を行っています。当社はこれらの体制を構築することにより、コーポレートガバナンスの強化を図っています。

■ コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンス

当社グループは、企業経営を行ううえで、また社会の中で活動する一員として、多くのステークホルダーの皆さまと良好な関係を構築できるよう、法令・定款の順守はもとより、社会の良識、常識を踏まえたコンプライアンス活動に取り組んでいます。

活動の基盤は、毎月開催されるコンプライアンス本部委員会と3カ月に一度開催される事業場ごとのコンプライアンス支部委員会にあり、コンプライアンス違反につながるかねない行為の根絶を図っています。

また、定点観測という観点からおおむね3年に一度、従業員全員を対象としたアンケートを実施しています。さらに通年で内部講師による職場単位での教育や階層別研修などを通じた教育を実施しています。また通報窓口としてのコ



コンプライアンス教育で使用している啓発マンガ

内部統制評価

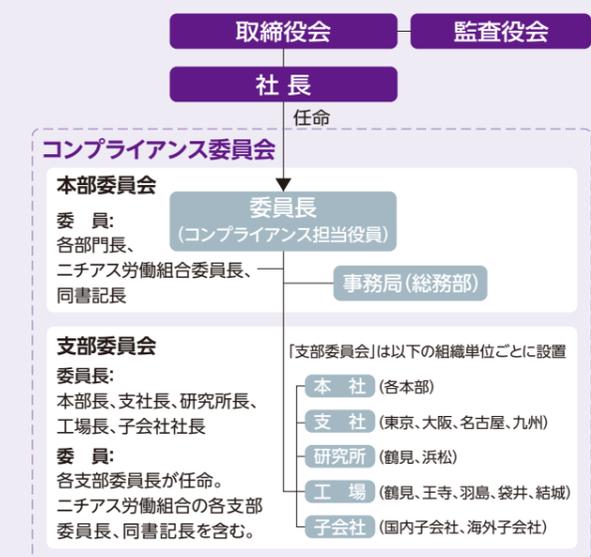
当社グループ全体の企業価値の向上を図るため、内部統制にかかる体制を整備し、その評価の仕組みを構築しています。公正性・独立性を明確にするため、社長直轄の内部統制監査室を設置し、当社グループの内部監査を計画的に実施しています。

2018年度は、ニチアス本体9拠点(営業8、研究1)、グループ会社31拠点(国内20、海外11)を対象に内部監査を行いました。いずれの拠点も、管理状況は良好であることを確認しました。また、当社グループの財務報告にかかわる内部統制は有効と判断する「内部統制報告書」を作成、提出しています。

ンプライアンスカウンターの啓発ポスターを掲示することに加え、社内イントラネットに「コンプライアンスポータルサイト」を設け、従業員全員に啓発資料を提供しています。こうした活動を通して従業員の意識向上と、通報者が情報提供をしやすい開かれた体制づくりを積極的に推進しています。

そのほかにも、第三者機関による「総合通報窓口」も開設し、より透明性の高い体制の中で、コンプライアンス経営を実践できるよう努めています。

■ コンプライアンス体制図



知的財産の保護

当社グループでは、事業を展開していくうえで知的財産(知財)を重要なものとして位置付けています。

そのため、新製品開発や新規研究で創出した技術については、権利取得を積極的に推進し、技術の保護に努めています。新製品発売時には他者の知財権を尊重し、権利侵害がないよう適宜調査・確認を実施し、他者からの権利侵害については適切に対応しています。また、自社ブランドの権利化を各国で進めるとともに、模倣品調査を適宜行い、模倣品発見時には適切に対応することで自社ブランド価値の維持・向上および利用者の安全確保に努めています。

お客さまとのつながり

ニチアスグループは、お客さまにとって安全・安心な製品の提供、および、お客さまに役立つ製品・サービスの提供を推進しています。



安全・安心な製品の提供

● お客さまに信頼される品質への取り組み

お客さまに安心して使っていただける製品を継続的に提供するため、製品の企画・設計から廃棄まで、そのステージに応じて厳しく審査する仕組みを設けています。「開発」「設計」「技術」「製造」「販売」「品証」「環境」の各部門がそれぞれの専門の見地から連携し、製品の品質と安全性や信頼性、生産プロセスの妥当性を厳しく審査しています。

● 品質マネジメントシステム

当社グループでは、120余年の歴史で培った独自のシステムとISO9001を融合した、固有の品質マネジメントシステムを構築し、幅広い事業と多様な製品群の品質保証活動を推進しています。各製造事業場ではISO9001認証の取得を推進し、現在では国内外の製造工場や製造子会社など多数の事業場にて認証を取得しています。また公的認定製品は専門の組織を置きその適合性を管理しています。

● 問題改善、課題達成に向けた人材の育成

当社グループ全体で取り組んでいる改善活動であるNKK（ニチアス改善活動）を通じて、メンバーの成長や交流を支援しています。NKKでは、生産職場に加え、事務職や営業職など多種多様な職場で働くメンバーが「やってみよう」「育む」「ありがとう」をキーワードに、さらに「働きやすい明るい職場」をめざして取り組んでいます。年に1度開催され

る「NKK世界大会」では、世界中の職場から選ばれた優秀チームがその活動を披露します。その模様は国内外の事業場にライブ配信され、世界中の仲間とも活動を共有しています。2018年度は工場の検査部門のメンバーが、検査のスピードアップと質向上を両立する課題に取り組み、見事社長賞を受賞しました。



NKK活動



NKK世界大会

製品の安定供給

当社グループは幅広い産業になくてはならない製品・サービスを提供しています。したがって製品供給が滞ることなく、継続的に事業活動を行っていくためのBCP対策は極めて重要な経営課題です。

災害発生時に製品供給が途絶えた場合のお客さまへの影響度合い、市場での重要性、他社製品も含んだ代替品への切り換えの可能性などを勘案し、対策が必要な製品の優先順位をつけ、対策を確実に実施することで、製品供給の確保に努めています。また、災害発生時、企業活動を支える従業員の安全確保も重要な課題です。この2点をBCP対策の基本課題として、各種対策に取り組んでいます。

■ BCP対策を強化した事務所



鶴見工場 新事務所棟

株主・お取引先とのつながり

ニチアスグループは、透明性、公正性、効率性を重視した経営を行うとともに、財務情報については、迅速かつ適切に開示しています。また、お取引先に対しては、公平性を重視し、法令を順守した公正な取引を行っています。



株主・投資家への情報開示

● IR活動

当社グループでは、株主・投資家の皆さまからのご意見を真摯に受け止め、経営に活かしていくことが重要との認識から、担当部署としてIRチームを設置し、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションの充実に努めています。

たとえば、アナリスト・機関投資家向け決算説明会や工場見学会、個人投資家向け会社説明会を開催しているほか、日常的なミーティングや証券会社主催のカンファレンスへの参加なども行っており、2018年度は延べ156件のミーティングを行いました。こうしたアナリスト・機関投資家との対話を通じて得られたご意見については、IR担当より定期的に社内へフィードバックされ、経営・事業活動の改善に役立てています。引き続き、国内外の株主・投資家とのコミュニケーションを強化し、幅広い株主層の形成に努めていきます。

● アナリスト・機関投資家向け決算説明会の開催

アナリスト・機関投資家との適時・適切なコミュニケーションを図るため、期末決算および第2四半期決算の発表時に決

算説明会を開催しています。決算説明会では経営方針、経営戦略、事業概要、財務情報を説明するとともに、経営幹部と投資家との対話にも積極的に取り組んでいます。2018年度は、2回の説明会で計141名に出席いただきました。今後も財務情報だけでなく、環境・社会・ガバナンスなどの非財務情報に関する対話についても積極的に取り組んでいきます。



決算説明会

お取引先とのつながり

● 取引に関する方針

当社は、お客さまへの供給責任を果たすことを重要な企業評価基準ととらえ、起こり得る大規模自然災害が当社の生産へ与える影響を最小限にとどめるための対策の一つとして、原材料のBCP対策を進めています。

具体的には、各サプライチェーンのBCP対策状況を把握し、必要に応じて改善を求めています。なお、万一サプライチェーンだけでの対策が難しいと判断したときは、当社の原材料・半製品・完成品の在庫を積み増しすることでBCP対策を進めています。

● 公正な競争・取引

当社グループは、CSR活動の一環として、独占禁止法および下請法の研修に力を入れています。毎年、新入社員や新任管理職を対象とした研修会などに、独占禁止法・下請法順守に関するプログラムを盛り込んで実施しています。

2018年度は、独占禁止法順守のためのマニュアルを全面

改訂し、本社、支社、工場および研究所並びに子会社の管理者に対して、当該マニュアルによる研修会を実施し、当該マニュアルの周知と法令の順守を確認しました。また、当社の役員および全従業員を対象に、独占禁止法および下請法に関するeラーニングによる研修を行いました。さらに、子会社における下請業者との取引実態を調査のうえ改善も実施しました。これらの活動を通じ、当社グループは法令順守の徹底を図っています。



独占禁止法・下請法の研修会

従業員とのつながり

ニチアスグループは、安心して働くことのできる職場づくりに取り組んでいます。また、ダイバーシティの推進やワークライフバランスを重視し、仕事と家庭を両立してキャリアを積める各種制度の充実を図っています。



従業員の安全と健康の推進

● 安全・衛生への取り組み

安全最優先の大原則のもと、安全衛生基本方針に基づき、安全、衛生、健康に関する活動に取り組み、安全な製造設備への改善、KY活動およびリスクアセスメントの実施、作業員への安全・衛生教育などを実施しています。2018年度は、不安全行動に起因する災害を防止するために、初心にもどり「指差し呼称で安全確認」をスローガンとし、ニチアスグループ全事業場で指差し呼称を推進してきました。KY活動に重点を置き、作業員全体の危険感受性を高め、各人が当たり前作業前の「指差し呼称」で安全確認を実施するよう、活動を推進していきます。

● メンタルヘルスケア

当社では精神科医と産業医契約を交わし、仕事や職場に限らず悩みや心配ごとを抱えた従業員を支援するとともに、必要に応じてその上司の支援も行っています。2018年度はおよそ40回、延べ200名との面談を行いました。また新入社員や新任管理職などに対する社内集合研修では、必ずメンタルヘルス教育の時間を設けています。なお2018年度のストレスチェックは、ニチアスグループ24社、4,900名あまりを対象に実施しました。集団分析も行い、より働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

Voice



危険に気づく力を養うことが災害ゼロにつながる

建材事業本部
安全衛生管理課 課長
浦中 友晴

建材事業本部では、各地区にて毎月1回の安全衛生連絡協議会を開催しています。その中で、建材全国協会に加盟している62社のマキベエ工事、OAフロア工事、流通の協力会社各社より月1件のヒヤリハット報告の提出をしていただいています。現場にはたくさんの隠れた危険が潜んでいます。災害を未然に防ぐには、多くのヒヤリハット事例を見ることにより、危険を見抜く目を養うことが大事です。当初は儀礼的に行われていたヒヤリハット報告でしたが、その重要性を理解していただくことにより、現在は2件、3件と提出していただくようになり、災害防止につながっています。危険に気づく力を養う—それが災害ゼロの近道だと考えます。



安全衛生委員による「ゼロ災害」に向けた活動

NICHIAS (THAILAND) CO., LTD.
(タイ)
Dararat Ploysub

私たち安全衛生委員は、トップの安全方針「安全最優先」のもと、全従業員で下記安全活動を実施しています。

- ① セーフティトレーニングルームでの安全訓練による「知識習得」
- ② 「指差し呼称」「階段で必ず手すりを持つ」などの自社で作成した5つの安全行動のイラストを毎日見ることで「安全意識熟成」
- ③ KYT(危険予知訓練)による「危険感受性向上」

また、現場/パトロール指摘事項が改善されるまで、徹底した安全チェックを行っています。災害を発生させないためには、全従業員の理解を深め、安全意識を高めることがもっとも大切です。全従業員とともにリスクを低減し、「ゼロ災害」に向けてがんばります！

2018年度 ニチアス全国安全週間安全標語

金賞 目で確認、指差し確認、声で「ヨシ」 重ねる安心、安全作業
株式会社APJ 製造部 高橋 寧

人材の開発と育成

● さまざまな人材育成研修制度

当社では、持続的成長のためには「働きやすい明るい会社」をめざした「人づくり」が重要と認識し、人材育成における各種取り組みを進めています。人材育成については成長ステージに応じた役割の認識や従業員の能力開発を図ることを目的に、新入社員研修や階層別研修、新任管理職研修などさまざまな研修を実施しています。2018年度は、延べ162名の従業員が研修に参加しました。

ワークライフバランスの推進

● 在宅勤務制度の検討

当社は、育児、介護にかかわる従業員のために勤務時間の短縮や時差勤務、フレックスタイム制度、看護休暇などさまざまな制度を取り入れており、多くの従業員が有効に活用しています。これらの制度に加え、育児、介護にかかわる従業員の負担の軽減や時間的な制約の緩和および傷病から復帰する方の通勤時の負担の軽減を図るため、柔軟な働き方ができる在宅勤務制度の導入を検討し、今以上に安心して働き続けられる職場環境づくりを推進しています。

ダイバーシティへの取り組み

● 障がい者雇用率の維持

当社では、全国の事業場において積極的に障がい者の採用を行っています。特別支援学校から実習生を受け入れるなど、障がい者の方が安心して長く勤めていただけるような取り組みを進めています。障がい者の方は、本社をはじめ、支社、工場などの全国の事業場において、一般事務、庶務、軽作業など、さまざまな職場で活躍しています。当社の障がい者雇用率は2019年3月現在で2.1%となっています。

有給休暇の取得推進

当社は、今以上に「働きやすい明るい会社」をめざし、ワークライフバランスを重視し、積極的な有給休暇の取得を推進しています。2019年度より、従業員一人ひとりに有給休暇の年間の取得日を計画させることにより、より取得しやすい環境づくりを推進します。また、労働組合と協力して有給休暇取得推奨日を各月に設け、取得推進の活動に取り組んでいます。2018年度の有給休暇の取得率は53%です。

COLUMN

子ども参観日ははじめとした家族参加型イベントの充実

当社グループは会社と家族のつながりを大切にし、家庭内でのコミュニケーションを向上させる活動を推進しています。その一環として、従業員の子どもたちへ職業観の育成と親の仕事への理解を深めてもらうことを目的に、本社・支社・研究所では父母の職場見学や仕事体験をしてもらう「子ども参観日」や「家族参観日」を、製造設備がある事業場では「工場見学会」を実施しています。

本社 26名
当社では26名の子どもたちが参加しました。メインの実験は、ろ紙を使ってサインペンの色がどのような色で構成されているかを観察しました。この技術を応用して製品の構成物質を分析していることを勉強しました。



名古屋支社 13名
初開催となった名古屋支社では13名の子どもたちが集まりました。名刺交換から、断熱材を使った比較実験、電話でのアゲ取り・職場見学を通して、お父さん・お母さんの会社や仕事について多くのことを学びました。



浜松研究所 14名
2回目の開催となった浜松研究所では14名の子どもたちが参加しました。夏休みの自由研究に活かせるような参加型の実験では、ウレタンをモコモコ発泡させ、かわいいキャラクターを作成しました。



社会とのつながり

ニチアスグループは、
支援活動や助成を通じた社会への貢献を意欲的に推進しています。
また、事業所がある地域社会とのコミュニケーションづくりを大切にしています。



社会貢献活動

● 寄付・助成を通じた支援

当社は、CSR活動の一環として災害支援や学術研究支援などの見地から、さまざまな寄付・助成を行っています。2018年度は総額で約3,800万円の寄付・助成を行いました。

● 災害支援

当社は、日本赤十字社や各都道府県の共同募金会を經由した寄付・支援活動を行っています。2018年度は西日本豪雨災害、北海道胆振東部地震などに対する寄付を行いました。今後もこのような活動を継続していきます。

● フードバンクへの備蓄食料の提供

当社は、食べられる状態にもかかわらず捨てられる食品(食品ロス)を、本当に食料に困っている方や福祉施設などへ無償で届けるフードバンクへの協力を開始しました。認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパンを通して、賞味期限が迫り入替時に廃棄を予定していた災害用備蓄品を提供しています。2018年は、アルファ米450食分の寄付を実施しました。

● 学術研究に対する助成

当社は、日本の研究・開発機関に貢献すべく、研究開発に助成を行っています。助成先は、半導体関連、有機合成、セラミックス、分析・評価技術など最先端技術を中心に、幅広い分野にわたっています。また、海外の大学にも支援を広げています。2018年度は、総額約2,800万円の助成をしています。今後とも、有望と思われる分野、機関に助成を続けたいと考えています。

● インドネシアにおける快適・省エネ住宅に関する助成

当社は住宅断熱研究において以前より親交のある広島大学久保田准教授の「インドネシアの中間層向け住宅の快適・省エネ化プロジェクト」を2016年度より支援しています。本プロジェクトは、インドネシアの住環境の研究機関であるPuskim (Pusat Penelitian dan Pengembangan Permukiman)、インドネシアの大学および久保田准教授が共同で行い、中間層の住宅環境の快適性と省エネルギー化を両立するための研究で、インドネシア住環境改善への貢献をめざします。支援は2016年度から4年間、総額7,200万円を計画しており、2019年度についても計画どおりに支援します。

COLUMN

海外拠点での社会貢献活動 ニチアスグループは世界各国に多数の生産・販売拠点を展開しています。各国の地域や従業員との調和を図りながら、ともに発展していけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

- インドネシア**
PT. NICHIAS SUNIJAYA
 - 各種寄付・義援活動(近隣モスク、孤児院)
 - ファミリーギャザリングを開催
 - マンゴローブ植樹を実施
- PT. NICHIAS ROCKWOOL INDONESIA
 - 工場周辺清掃
 - ファミリーギャザリングを開催
- PT. NICHIAS METALWORKS INDONESIA
 - 周辺地域に金属スクラップを提供
 - 地域孤児院に卓球セットや机を寄付
 - ファミリーギャザリングを開催

- マレーシア**
NICHIAS FGS SDN. BHD.
 - 学校、宗教施設などに対する建築用パネルの寄付
 - 保全森(FGSの森)の手入れ・植林
 - 献血活動

- ベトナム**
NICHIAS HAIPHONG CO., LTD.
 - ファミリーデー開催

- NICHIAS VIETNAM CO., LTD.
 - ハノイ日本祭り2018にボランティアとして参加
- タイ**
NICHIAS (THAILAND) CO., LTD.
 - 拠点周辺地域の清掃活動
 - 近隣小学校、寺院、病院へ物品の寄付
 - 工業団地内の清掃活動に参加
- THAI-NICHIAS ENGINEERING CO., LTD.
 - 学校の施設修繕活動の実施
- THAI NICHIAS INTERNATIONAL CO., LTD.
 - サンゴ礁の植え付け
 - ソルトリックの実施

- 中国**
蘇州露佳斯工業製品有限公司
 - ファミリーデー開催

- 霊岩山(LingYan Mountain)山道掃除
- 蘇州露佳斯密封材料有限公司**
 - ファミリーデー開催
 - 地域の慈善活動へ参加
- インド**
NICHIAS INDUSTRIAL PRODUCTS PRIVATE LTD.
 - 工場外周清掃の実施
 - ケララ州の洪水に対する義援金
 - 児童養護施設に寄付、州政府基金に寄付

- メキシコ**
NAX MFG, S.A.DE C.V.
 - ネオンマラソン大会(チャリティーラン)への参加
 - 従業員家族を対象とした職場見学会、クリスマスパーティーを開催

地域貢献活動

ニチアスグループは全国各地に複数の事業所を有しています。各地域に根ざした活動を目標に各事業所がさまざまな取り組みを行っています。

事業所	取り組み内容
札幌支店	岩内町怒涛祭りへの協賛
苫小牧営業所	ペットボトルキャップ回収
仙台支店	地域清掃活動
福島営業所	地域清掃活動、花壇の整備
日立営業所	地域清掃活動
鹿島支店	地域清掃活動
前橋営業所	地域清掃活動、前橋花火大会への協賛
千葉支店	献血活動、赤い羽根募金、地元消防団や日本赤十字などへの寄付
本社・東京支社	交通安全街頭活動、地域清掃活動
横浜支店	鶴見川河川清掃活動
神奈川支店	献血活動、地域清掃活動、神奈川県共同募金会への寄付
新潟営業所	小学生への火力発電所見学の引率とスキー授業引率指導、地域清掃活動
富山営業所	地域清掃活動
山梨営業所	地域清掃活動
静岡支店	地域清掃活動、御前崎社会福祉協議会への寄付
浜松支店	地域清掃活動
名古屋支社	赤い羽根募金、名古屋商工会議所への寄付
豊田支店	交通安全運動、交差点での立哨
四日市支店	地域清掃活動
若狭支店	地域清掃活動、おおい町花火大会などへの寄付
京滋支店	赤い羽根募金、地域への寄付
大阪支社	大阪商工会議所への寄付、地域清掃活動、日本赤十字への寄付
堺営業所	河川清掃活動
神戸営業所	地域清掃活動
姫路支店	地域秋祭りへの協賛
岡山支店	地域清掃活動、地元スポーツ活動への寄付、赤い羽根募金
広島支店	チャリティーカレンダー展に参加、地域清掃活動
宇部営業所	地域清掃活動
徳山支店	夏祭りへの寄付、少年野球への協賛、地域清掃活動
四国営業所	地方祭(新居浜太鼓祭り)への寄付金寄進
北九州営業所	地域祭りへの寄付
九州支社	地域清掃活動
長崎支店	地域清掃活動
熊本支店	通勤経路交通安全運動、地域清掃活動
大分営業所	地域清掃活動
鶴見研究所	河川清掃活動、解体予定の建屋を消防署の訓練に提供
浜松研究所	献血活動、地域清掃活動

□ ニチアス営業所 □ ニチアス研究所/工場 □ 子会社

事業所	取り組み内容
鶴見工場	河川清掃活動、バス停留所清掃、七夕ライトダウン
王寺工場	企業版ふるさと納税、王寺町自治会・商工会のイベント参加、三郷中学校・斑鳩南中学校の職業体験実施のため職場を提供、郡山分工場にて家族パトロール実施、工場内移動バスによる献血支援
羽島工場	24時間TV長良川清流プロジェクトに参加、長良川フナ放流、工場外周清掃、濃尾大花火への協賛
袋井工場	幼稚園・保育園への図書寄贈、地域清掃活動、遠州袋井の花火警備員
結城工場	区長・近隣住民との意見交換、しもつま砂沼花火大会への協賛、地域清掃活動
ニチアスセラテック	こども図書へ寄付、空き缶拾い、各種協賛
堺ニチアス	大阪湾グリーン作戦、工場周辺清掃、地元小学校に傘を寄付
国分工業	大和川クリーン作戦、柏原市花火大会時に場内駐車場を開放
竜田工業	大和川クリーン作戦、峨瀬自治会主催「キッズサマーフェスティバル」に飲み物を提供、工業団地清掃
大田化成	ペットボトルキャップ回収、町内会掲示板設置場所提供、地域清掃活動、町会神社祭りへの寄付
ニチアスメカテック	鶴見川河川清掃活動、生麦駅周辺清掃
ニチアス関東販売	地域清掃活動
西日本ニチアス	地域清掃活動、盆踊り大会への協賛、ユニセフ募金
ハマアス	津波対策堤防への寄付
新日本熟学	地域清掃活動、お祭りへの協賛
ニチアスエンジニアリングサービス	地域清掃活動
イノクリート	地域清掃活動
ニチアス九州販売	地域清掃活動
福島ニチアス	花いっぱい運動
熊本ニチアス	通学路の交通誘導活動、地域清掃活動
メタコート工業(奈良工場)	交通安全運動への参加、地域清掃活動、献血活動
メタコート工業(岡山工場)	春の交通安全運動への参加、地域夏祭りへの参加協力、地域漁協への寄付、中学生の工場見学を実施
APJ	献血活動、神奈川大和阿波おどりなどへの協賛、地域清掃活動
日本ロックウール	地域清掃活動
君津ロックウール	地域清掃活動
ニチアスセムクリート	地域清掃活動
ニチアスシルテック	地域清掃活動、日本赤十字社への寄付
アメニティ建材	地域清掃活動、花火大会への協賛
中村機械製作所	地域清掃活動

● 解体予定建屋を提供し消防訓練を実施 鶴見研究所

鶴見研究所では事業所の建屋再編にともなう、解体予定の古い建屋を鶴見消防署に「消防署員の訓練用」として提供しました。2018年7月28日、8月1日、3日、4日の4日間、消防署員による消防訓練が行われ、火災想定訓練や破壊訓練が実施されました。



消防訓練の様子

● 近隣中学校を対象とした工場見学 メタコート工業 岡山工場

メタコート工業岡山工場では、地域に住む方々との触れ合いのために、近隣の中学校の生徒を招待し、工場見学を実施しています。2018年は5名の生徒が岡山工場を見学しました。工場やフォークリフトなどスケールの大きさに驚いていました。



工場見学の様子

環境への取り組み

ニチアスグループの製品は、断熱、流体の漏れ防止、遮音、耐食などの機能により、省エネルギー、省資源、安全衛生・環境保全など、お客さまの「環境」に関するニーズに応え、お客さまの使用ステージにおいて環境負荷の低減を実現しています。当社グループは、つねに「環境」を意識して活動しています。



ニチアス環境憲章

当社では環境改善活動を全社的なものにするべく、2001年4月に当社の環境方針となる「ニチアス環境憲章・環境行動指針」を制定しました。2017年4月には、環境に対する社会のニーズに合わせ、内容を変更しました。

これらを実行すべく、製造部門では環境マネジメントシステムの統合認証取得による環境管理活動を推進しており、事業部門ではより環境負荷を低減した製品の開発をめざし、管理部門では活動をより全社的なものにするべく、システムの構築や環境教育の実施に取り組んでいます。

● 環境行動指針

ニチアス環境憲章に従い、以下の項目を継続的に活動し、改善を図っていきます。

1 コンプライアンスの徹底

法令順守はもとより、自主基準を設定し、社会的責任を果たします。

2 環境負荷低減製品の開発

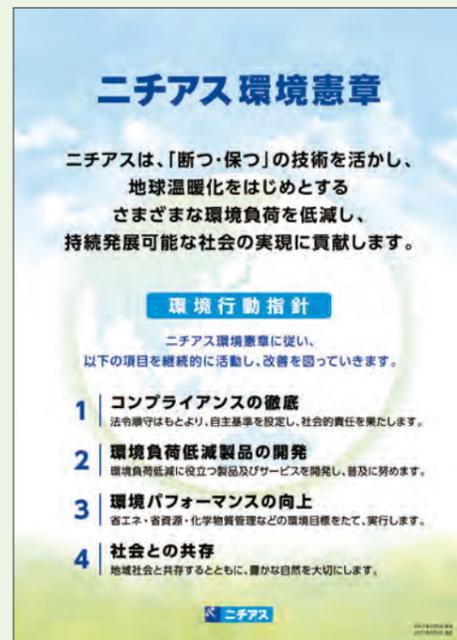
環境負荷低減に役立つ製品及びサービスを開発し、普及に努めます。

3 環境パフォーマンスの向上

省エネ・省資源・化学物質管理などの環境目標をたて、実行します。

4 社会との共存

地域社会と共存するとともに、豊かな自然を大切にします。



環境活動の推進体制

当社グループでは、1968年に現場改善分科会を設置し早期から環境対策を行ってきました。1990年代に入ると工場からの環境負荷低減はもとより、コンプライアンス徹底のための環境レベル診断、地域住民目線で工場周囲をチェックする環境パトロールなど、独自の方法で環境問題へ取り組み、リスクを低減してきました。このような対策の歴史から、2011年度より環境経営への転換を目的として、環境管理推進体制の整備を進めています。環境に配慮した活動を全社方針のもとで実現するため「全社環境委員会」を設置し、同委員会のもとに「管理」「製品」「工場」の3部会を置く体制としています。工場部会では、ISO14001のグループ会社統合取得を推進し、2020年度の全製造事業場統合をめざしています。2017年度にはISO14001の2015年度版への移行が完了しています。現在、当社グループ製造事業場の従業員のうち86%がISO14001認証取得事業場にて従事しています。

■ 環境管理推進体制図



ISO14001などマネジメントシステムの認証取得状況
<http://www.nichias.co.jp/environment/management/>

環境管理活動と目標

「ニチアス環境憲章」に基づき、環境中期方針(2016年度～2020年度)を新たに策定しました。環境中期方針では「コンプライアンスの徹底」「環境負荷低減製品の開発」「環境パフォーマンスの向上」「社会との共存」の4課題を設定して活動しています。

■ 環境中期方針に基づく2018年度の実績と2019年度の目標

	中期目標	2018年度目標	2018年度実績	評価	2019年度目標
1 コンプライアンスの徹底	環境負荷や法的不備が変化点でわかる仕組みの構築	全事業場における環境法規の順守徹底の継続	外部審査、社内環境部門による環境監査にて大きな法違反なし法順守を維持できる仕組みが継続されている	●	全事業場における環境法規の順守徹底の継続
	製品環境法規の順守徹底	製品環境法規の順守徹底の継続 継続的な毒劇物製品扱い者、危険物輸送担当者への教育	毒劇物取締法、消防法、国連危険物に関する製品の取り扱いから販売・輸送までの定期教育	▲	製品環境法規の順守徹底の継続 継続的な毒劇物製品扱い者、危険物輸送担当者への教育
	SDSの確実な提出	SDS作成と改訂の継続と確実な提出ラベル表示の順守継続	2018年度 SDS新規作成49件 改訂142件	●	SDS作成と改訂の継続と確実な提出ラベル表示の順守継続
	全従業員への環境教育の実施	全従業員への定期環境教育の推進・維持の継続 eラーニングによる全従業員への環境教育の実施継続 受講率目標 95%以上の維持	全従業員向けeラーニング教育実施済 環境ボランティア活動の実行 eラーニングによる部門別環境教育の実施 受講率 99.8%	●	全従業員への定期環境教育の推進・維持の継続 eラーニングによる全従業員への環境教育の実施継続 受講率目標 95%以上の維持
	環境委員会 工場・製品・管理部会の充実	工場・製品・管理部会 それぞれの年2回開催の継続	全従業員向けeラーニング教育実施済 環境ボランティア活動の実行	●	全従業員への定期環境教育の推進・維持の継続
	PCB含有機器の適切な処理の推進	PCB含有機器の調査推進と適切な処理継続	2018年度安全衛生環境通信を11回発行	●	安全衛生環境通信の発行継続
2 環境負荷低減製品の開発	未規制化学物質への自主的対応	製品環境アセスメント、製品含有物質管理の徹底継続 未規制化学物質への自主的対応の継続	諸外国で規制化された物質の有害性情報よりリスクに応じて社内での取り扱い方法を適宜通知	●	製品環境アセスメント、製品含有物質管理の徹底継続 未規制化学物質への自主的対応の継続
	顧客グリーン調達への対応	顧客グリーン調達への対応継続 原材料グリーン調達の定期更新の継続	顧客からのグリーン調達調査は事業部で対応できる体制確立 2018年度グリーン調達結果 新規:94件(2017年度:183件) 更新:363件(2017年度:355件)	●	顧客グリーン調達への対応継続 原材料グリーン調達の定期更新の継続
3 環境パフォーマンスの向上	産業廃棄物排出の削減	産業廃棄物排出量生産高原単位を2018年度末に2016年度比5%削減	グループ全体で産業廃棄物削減活動の継続により2016年度比15%削減	●	産業廃棄物排出量生産高原単位を2020年度末に2018年度比7%削減
	原油換算エネルギーの削減	原油換算エネルギー原単位2020年度末までに2015年度の必達目標 5%削減 努力目標 7.5%削減 (COP21目標に準拠)	全体的な生産増加によるエネルギー効率向上で2015年度比9%削減	●	原油換算エネルギー原単位2020年度末までに2015年度の必達目標 5%削減 努力目標 7.5%削減 (COP21目標に準拠)
	国内製造拠点のISO14001取得率向上	国内製造拠点のISO14001取得率向上 2015年度末13事業所→2020年度末21事業所	ニチアスセラテック(株) (株)熊本ニチアス (株)西日本ニチアスを統合ISO14001へ追加準備開始	●	国内製造拠点のISO14001取得率向上 2015年度末13事業所→2020年度末20事業所未取得事業場の取得準備開始
4 社会との共存	情報公開の維持・推進	2018年CSRレポートの発行	2018年6月CSRレポートを発行	●	2019年CSRレポートの発行
	事業場の美観整備	工場整備計画の継続実施	熊本ニチアスの新工場2棟が完成、王寺工場新2号棟および福島ニチアス新棟の建設に着手	●	工場整備計画の継続実施
	再発苦情の撲滅	再発苦情撲滅のための方策展開の継続 苦情となり得る設備の特定化とその管理方法の確立 再発環境苦情 ゼロ	環境会議などで再発防止策の有効性と水平展開を実施 環境苦情 2件発生、内再発0件	●	再発苦情撲滅のための方策展開の継続 苦情となり得る設備の特定化とその管理方法の確立、継続 環境苦情 ゼロ

環境パフォーマンス

持続可能な社会の構築に向けて環境負荷物質削減への取り組みを強化しています。

当社グループでは2015年度より環境活動範囲を拡大し、2017年度レポートより君津ロックウールのデータを追加しています。

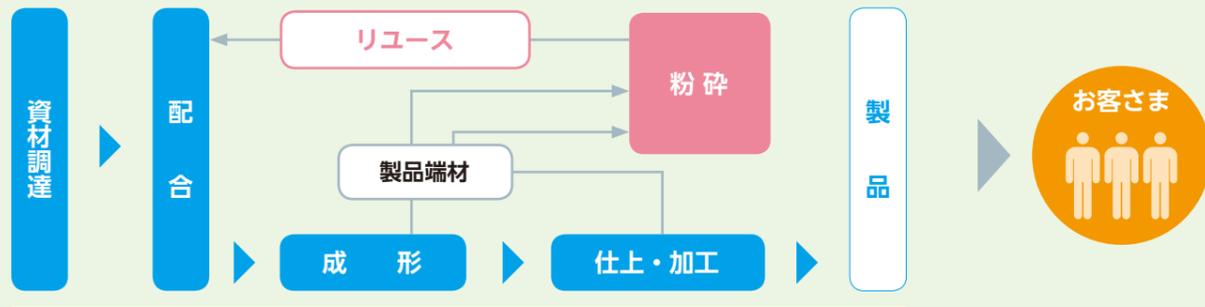
ニチアスグループの環境負荷全体像

当社グループは、事業活動において投入するエネルギー量や化学物質・水資源などの物質量と、排出するCO₂量や産業廃棄物量などを把握するとともにそれらの削減に向けた具体的な目標を設定し、PDCAサイクルを回すことで環境負荷の削減に取り組んでいます。

INPUT

エネルギー		水資源		PRTR*対象物質	
種別	使用量	種別	取水量	種類合計	使用量
電力	17,486万kWh	上水	34万m ³	52	2,803t
石油燃料	11千kℓ	工業用水	51万m ³		
ガス燃料	1,019万m ³	地下水	35万m ³		
コークス	11千t				

ニチアスグループの生産活動



OUTPUT

CO ₂		排水		主なPRTR*対象物質排出量	
種別	排出量	種別	排出量	物質名	排出量
CO ₂	18.7万t	排水	53.3万m ³	トルエン	214.1t
				フェノール	6.4t
				エチレングリコールモノエチルエーテル	3.7t
				ホルムアルデヒド	2.7t
				キシレン	1.7t
				トリエチルアミン	1.3t

大気汚染物質		水質汚染物質		産業廃棄物	
種別	排出量	種別	排出量	種別	排出量
硫黄酸化物	13.7t	浮遊物質(SS)	20.9t	産業廃棄物	12,578t
窒素酸化物	85.2t				
ばいじん	26.7t				

※特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

● エネルギーの効率利用実績

当社グループは2016年度からの環境中期計画では2020年度末の5年間で2015年度比原油換算エネルギー生産高原単位5%減を必達目標とし、さらに努力目標を加えた7.5%の削減活動を進めています。これはCOP21の削減目標を見据えたものになっています。

2018年度も2017年度から続いている好調な生産活動による生産量増加に支えられ、原油換算エネルギー生産高原単位は好結果を維持し2015年度比では9%削減となりました。2018年度のCO₂排出量は、18.7万トンと2017年度に比べ0.7万トン増加しましたが、CO₂排出量原単位は2015年度比13%の減となりました。

当社グループでも、積極的に省エネ機器の導入および更新の取り組みを進めており、2018年度の環境保全設備では、高効率ファンへの更新による省エネ、照明機器のLED化、省エネ型エアコンの採用などで301百万円ほどの設備投資を行っています。

● 不要物・産業廃棄物排出量の削減

2018年度の事業活動における不要物^{注1}の排出量は総量16,997トンで前年度比1,596トンの増加、産業廃棄物の排出量は12,578トンで前年度比1,419トンの増加となりました。排出量生産高原単位では、前年度比4ポイントの増加となりましたが、2018年度末の目標は達成しています。(グラフ参照)。これは2016年度に設備投資したロックウール工場の廃棄物再利用システムが引き続き順調に稼働していること、各拠点での不良低減活動、製造歩留まり改善、生産性向上などの活動を通して確実に不要物、産業廃棄物を減量させています。なお、当社グループより排出される不要物から58%のものが再資源^{注2}として利用されています。

注1: グループから排出される有価売却物を含む廃棄物
注2: 最終処分(埋め立て)以外の中間処理、社内再生、有価売却されたものを再資源化と定義

● PRTR対象物質排出量の削減

2018年度の事業活動におけるPRTR対象物質の使用量は、2,803トンで、前年度から7トンの増加となりました。これは、引き続き堅調な生産工程で副資材に使用する溶剤の使用量が増加しPRTR対象物質投入量が増加したことによるものです。そのため、大気への排出が2018年度は若干の増加となっています。

各生産拠点では、少しでも環境影響を減らすべく継続して化学物質取り扱い量の削減、PRTR対象物質を含まない洗剤や塗料への転換に取り組んでいます。

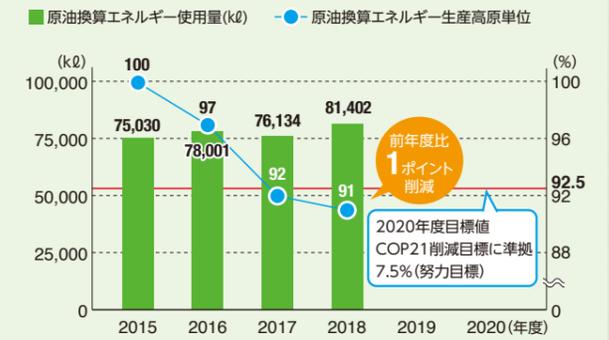
エネルギー効率利用の取り組み

2015年度比の原油換算エネルギー生産高原単位

目標: 2020年度末までに5%削減
(努力目標7.5%削減)

2018年度実績
9%削減

原油換算エネルギー使用量および生産高原単位の推移 (当社グループ製造事業場)



※生産高原単位は2015年度を100%としています。

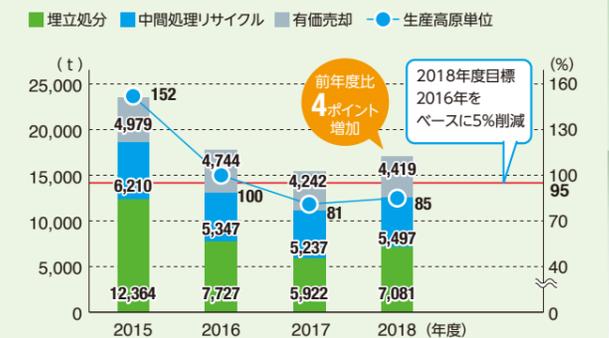
不要物・産業廃棄物削減の取り組み

2018年度末までに産業廃棄物排出量生産高原単位

修正目標: 2016年度比5%削減

2018年度実績
15%削減

不要物排出量および産業廃棄物生産高原単位の推移 (当社グループ製造事業場)



※生産高原単位は2016年度を100%としています。

PRTR対象物質排出量・廃棄物量の推移 (当社グループ製造事業場)



環境マネジメントシステム

さまざまな環境問題に積極的に取り組むとともに、環境憲章に基づいた環境経営の実現をめざしていきます。

● 環境リスクマネジメント

製品含有化学物質管理への取り組み

製品の開発設計から、調達、製造、販売までの各段階において、化学物質規制に対するコンプライアンスを徹底する取り組みを継続しています。2018年度も継続して「製品含有化学物質の管理体制」の運用を進めてきました。従来から発行しているSDS(安全データシート)や製品ラベルなどお客さまへの提供資料を同体制に連動して作成・管理ができる仕組みです。

環境パトロール

地域社会との共生を目的として、当社グループでは1990年から環境パトロールを実施しています。これは従業員が事業場の周囲をパトロールし「美観」「大気(粉じん・臭気)」「騒音・振動」「排水」の4つの項目を事業場の特性に合わせて確認する活動です。

2018年度はグループ全体で延べ85回パトロールを実施し、180件の指摘事項を改善しています。できることから少しでも環境リスクを低減する活動を継続して進めています。

外部からの指摘

2018年度は、製造事業場から発生する臭気や騒音についてグループ全体で2件の指摘を受けました(内、再発環境苦情は0件)。この2件の環境苦情について、真摯に受け止め発生した事業場だけでなくグループ全体で騒音対策や悪臭対策を考え再発防止を図っています。指摘内容の対応経過や改善策は関係自治体へも報告、連絡しています。

環境啓発活動

2018年度も情報新聞「安全衛生環境通信」(月刊)の刊行を継続し、社内外の安全衛生環境情報を全従業員に発信してきました。また、従業員一人ひとりの環境に対する意識を高めていくような地域へ協力する清掃活動を展開しています。

● 環境監査体制

製造事業場では①製造事業場内での内部監査、②本社環境

部門による監査、③外部審査機関による監査の3者による環境監査を実施しています。2018年度もISO14001工場統合認証継続活動の中で事業場間相互内部監査を実施しています。なお、これらの監査の結果、敷地境界騒音にて一部基準超過はあるものの重大な法令違反はありませんでした。

● 環境会計

事業活動における環境保全設備投資金額^{注1}は598百万円でグループ全体の設備投資額の4.6%にあたり前年度比-39百万円の微減となりました。これは、省エネ機器の採用や新棟建設にともなう緑地の整備などに積極的に投資した結果です。また、環境設備の運転コスト・メンテナンス費用・人件費などを集計した環境保全コスト^{注2}は529百万円となり前年度比70百万円の増加となりました。

注1: 当社グループ全体を集計対象
注2: 当社製造工場のみを集計対象(グループ全体の集計は検討中)

■ 環境保全設備投資金額 (当社グループ全体/2018年度)

分類		金額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	91
	地球環境保全コスト	301
	資源循環コスト	51
管理活動コスト		155
合計		598

■ 環境保全コスト(当社製造工場/2018年度)

分類		金額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	230
	地球環境保全コスト	39
	資源循環コスト	188
管理活動コスト		72
合計		529

● 環境教育・啓発

環境教育活動

当社では全従業員を対象とした職種別eラーニングの環境教育を2013年から毎年実施しています。事業本部で主管製品が異なるため、事業本部ごとの教育項目で学習する内容としており、2018年度は、自動車部品事業本部ではグリーン調達、化学物質の規制に関する内容と理解を深める勉強としました。

Topics 地域環境への配慮活動

蘇州露佳斯工業製品有限公司(当社の中国製造子会社)における大気放出VOCの除去活動

中国では大気汚染防止の柱として、日本の規制より厳しいVOC(揮発性有機化合物:Volatile Organic Compoundsの略)の回収・除去が義務化され、政府主導による規制および管理の強化が推し進められています。蘇州露佳斯工業製品有限公司では、主にふっ素樹脂チューブ製造で使用される溶剤のVOCが規制の対象となり、90%以上除去という厳しい規制をクリアするため、蘇州環境局のアドバイスを受けて、検討を進めました。当社グループ工場のVOC対策実績や当社製品であるソルベントクリーン(VOC濃縮装置)の活用などを検討した結果、今回の排出ガス条件に関しては、水処理(スクラバー)方式がリードタイム、除去性能などの面で利点大きいことがわかりました。さらに将来的に回収したガス(廃油)の再利用を見据えて、除去処理装置を決定・導入し運転を開始し大気放出排気から96%のVOCを除去することに成功しました。



蘇州露佳斯工業製品有限公司の屋上に設置された除去処理装置

Voice



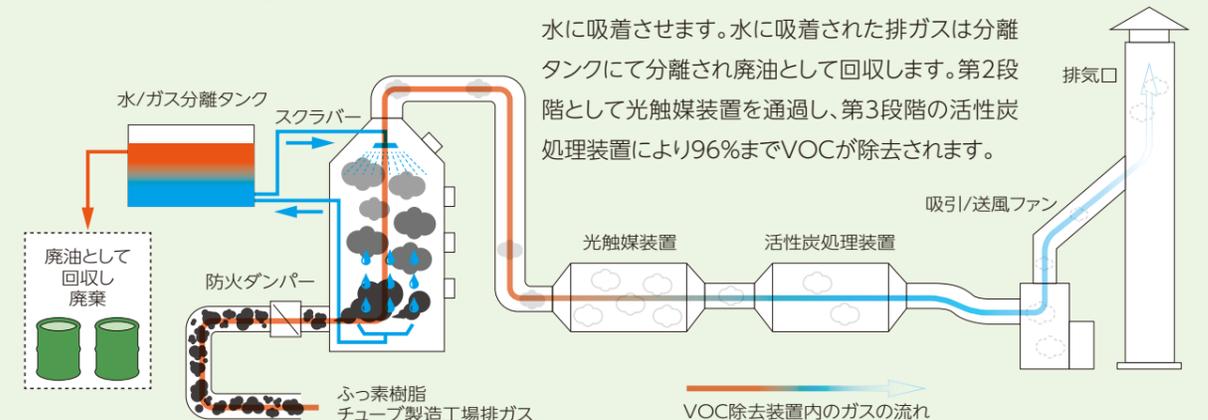
厳しい排ガス規制に短納期で対応

蘇州露佳斯工業製品有限公司
設備技術部 部長

周峰

処理設備の仕様検討にあたり、環境局からいくつかの方策を推奨されましたが、より迅速な対応を進めるため、同種のVOC対策でニチアス王寺工場が採用していた水処理(スクラバー)方式を検討しました。環境局に対しても王寺工場の実績データを説明することで理解を得ることができ、さらに追加の処理をすることで非常に厳しい蘇州工業園区のVOC排出基準をクリアすることができました。当地区の空気浄化に貢献できたことを誇りに思います。

■ スクラバー方式VOC除去処理装置フロー図



ニチアス株式会社

〒104-8555 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号

TEL 03-4413-1194 (CSRチーム事務局)

<https://www.nichias.co.jp>



表紙の写真

ニチアスは古くから日本を指すトンボをトレードマークとして使用してきました。CSRレポートでは、トンボをテーマにした写真を当社グループの従業員から公募し、掲載しています。2019年の応募者数は47人でした。表紙の写真は「自然との調和」をイメージしたトンボの写真として、見事優秀賞に輝いた作品です。

撮影者のコメント

このような賞をいただけるとは思っていませんでしたので、受賞の連絡を受けたときはとても驚き、うれしさが隠しきれず、思わず顔がほころんでいました。写真は、友人7人と室生芸術の森へ行ったときの一枚です。湖のそばでたくさんのトンボが飛んでいて、一瞬お尻を水面に入れたときの波紋が、雨でも降っているかのように消えては出てきての繰り返し。産卵でしょうか？ これからも、こんな景色を切り取ってみたいです。

国分工業株式会社 青木 典子

この印刷物
1冊あたり
CO₂ 243.8g



この印刷物は、日本水なし印刷協会、カーボンフリーコンサルティングを通じ、温室効果ガス削減プロジェクト（自然エネルギー事業）によって削減された CO₂ 排出権を購入することで、印刷物制作において排出された CO₂ を相殺しています。



印刷版の作成時に有害な現象液を使わず、また印刷の際にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な水なし印刷を採用しています。



この印刷物は鉛物油を使用せずに VOC（揮発性有機化合物）を含まない 100% 植物油型インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



この印刷物の用紙は、責任ある管理がされた森林からの材を含む FSC® 認証紙を使用しています。



LC-CO₂ に関しては、こちらからご覧いただけます。